

令和8年度第2回公立大学法人福知山公立大学評価委員会 議事録概要

1 日 時 令和8年7月23日（木）10:00～12:00

2 場 所 福知山公立大学 4号館4階会議室

3 出席者

委員	（リモート参加）青山委員長、大久保職務代理 （会場参加）菊田委員、藤原委員、山口委員
福知山市	渡邊副市長、伊藤室長、西舩課長、塩見係長、四方主事、吉田職員
福知山公立 大学	川添学長、西田副学長、倉田副学長、井上地域経営学部長、畠中研究科長、 渋谷基盤教育院長、倉本理事補、辻事務局長、荻野次長、大江課長、 小原課長、中尾課長、神代課長補佐、今田課長補佐、杉本主事

4 会議概要

	議題・報告事項	内容
1	【議題】 公立大学法人福知山公立大学 令和7年度業務の実績に係る 評価業務実績評価について	評価委員から公立大学法人への意見、質疑。

5 意見・質疑内容

（委員）

- まず、評価のポイントや評価の中で感じたことについて各委員からご意見をいただきたい。

（委員）

- 2学部1研究科で教育研究を進められているなか、最重要視されている地域貢献の継続および改善を進められていることが、実績報告書やウェブページ等を通じて伝わってきた。大学として努力していただいていることを感じた。
- 報告書の項目が多く、例年以上に読むことが大変だった。作成する法人の苦労も考えると、報告書の内容を簡素化することも必要だと考える。釈迦に説法になるが、目標に対する「成果→根拠→課題」の順番で整理することを、今一度意識してほしい。また、公表された際に市民の方々が読まれるということを想定して、内容を明瞭にするという視点を持っていただきたい。
- 地方独立行政法人法の改正により、次期中期計画から年度計画に対する評価のプロセスがなくなるため、文部科学省の指針を見ても、計画項目数を減らすことが国立大学法人および公立大学法人のトレンドになっている。大阪公立大学ではすでに項目を以前の半分以上にしており、代わりに評価指標を立て、ほとんどの項目で定量的な数値目標を設定するなど、明確に評価していただける仕組みを構築している。福知山公立大学においても評価項目の簡素化や数値目標を立てるといったことに取り組んでいただくことが、お互いにとっても良いと考える。

(委員)

- 大変なボリュームだと感じた。
- 中期計画の評価の中で、過去の年度評価では「4」と評価しているが、中間評価は「3」になっている項目があり質問をさせていただいた。
- 地元民として気になるのはやはり志願者の確保と北近畿地域の高大連携であり、こういった解決策を持っておられるのか質問させていただいた。私立大学だった時に定員割れが続き、救済する形で公立化したということもあり、志願者の確保については特に注目している。地元の人間としてはやはり、今後も地元になくってはならない、あり続けられる大学であってほしいと思っているため、学生たちがどこに魅力を感じてこの大学を選んでいただけるのかということ、研究し対策を行ってほしい。総合的な対策が必要になる中、福知山市としても施設の問題や大学の位置づけ、市と地域の発展と大学の発展が共存していけるような魅力を見つけていくことを、今後考えていただきたいと思う。

(委員)

- 評価書についてはボリュームが多く、読むのに苦労した。一市民としての視点で評価に臨みたい。
- 先ほど発言された委員と同様に、年度計画と中期計画に対する評価で、評価結果がズレているところが気になっており、本日もう一度考え直したいと思う。
- 受験者数が伸びていない、減っていることが気になっている。受験者の母数が減っている中、福知山公立大学としての魅力、私立ではない公立大学としての魅力を発揮して、受験者数確保に取り組んでいただきたい。

(委員)

- 評価をするにあたり、数値が決められているところについては達成・未達成の評価がしやすかった。一方で評価「3」と評価「4」は、下線部分が評価ポイントであると思いながら見ていたが、「高い評価を得る」という言葉が書かれているにもかかわらず「3」と自己評価されているところがあり、文章で判断をすることが難しいと感じた。やはり数値化された部分があれば判断しやすいと思う。
- 全体としては普段大学を見ていてもなかなか分からなかった、見えにくかった部分が丁寧に書かれていてすごく勉強になった。

(委員)

- 読むことが大変という意見が多かったが、評価方法もこれから変わっていく動きもある。1項目1項目を書くことも、表現をそろえることも大変だったと推察するが、これから簡略化されていく動きも聞き、安心した。
- 中期計画について、やはり情報学部を設置され、大学院も作られ、なおかつ地域経営学部と非常に密なつながりを作られたことを本当にすごいと感じている。情報学部と地域経営学部がある意味合体しながら、高いレベルでされている地域貢献を一緒にやっていく仕組みができていることはやはり評価できる。
- 資料1に委員の皆さんからの質問に対する法人からの回答があるが、委員の皆さんから意見や確認したいことはあるか。

(委員)

- 基盤教育院の機能を少し深掘りしたい。いわゆる教養科目を担当する教員集団ということは一般的に理解できるが、成績分布の分析やFD、内部質保証なども基盤教育院が担当しているのか。

(法人)

⇒ 基盤教育院に明示的にそのような機能を持たせているわけではない。教育全般の改

善については、基盤教育院と同じく今年度4月に立ち上げた全学教育企画室が主体となって行っている。基盤教育院は、基盤教育という4年間全体の教育や学生の成長にとって極めて重要だと考えている科目群の設計、運営、実施を行う主体として位置付けている。

(法人)

⇒ 基盤教育院の任務は基盤教育科目の展開である。両学部の専門教育科目の基盤を作る、また4年間の学びの基盤を作っていくのが一番の目的である。特に1年生が履修する科目が多く配置されている。具体的には以下の5つに分かれている。

- ・地域協働基盤科目群
- ・情報科目群
- ・汎用的学修能力育成基盤科目群
- ・統合知基盤科目群
- ・外国語科目群

(法人)

⇒ 補足だが、基盤教育科目群が単に専門教育のための準備とは考えていない。大学教育の最終の目的は専門教育を受けることだといえるが、基盤教育の「基盤」が意味するところは「専門教育の基盤」ということだけでなく、卒業後「社会に出て活躍するための基盤的な力」という意味でもある。専門教育の専門的な知識スキルだけでもって4年間の学士課程を修了させるのではなく、もっと広い力をつけさせるべきだという考えのもと基盤教育科目を設定し、基盤教育院を設置している。

(委員)

- いわゆる昔の教養部とも異なるのか。

(法人)

⇒ 情報や数学的な能力をどの学部を卒業した学生にも身に付けさせることを今の社会は求めている。社会が必要とする、また社会が高等教育を受けた人間に期待する能力とは何かということから科目を考えている。

(委員)

- よく理解できた。勤務する大学でも専門教育部に対しての上下関係があってはいけなないと、位置づけを議論したところであり、多くの教員が同じ志で教育に取り組んでいるため、よく分かった。カリキュラムマップ、カリキュラムツリーを拝見してもしっかり練られた計画で教育展開されていることも分かった。

(委員)

- ハラスメント研修の受講率が6～8割程度であるが、実際にハラスメント案件で当事者、特に加害者になる人は研修を受けていないケースが多くある。8割受講されていても残りの2割に大きなリスクがあるという意識を持って、役員を含む全員の受講に取り組んでほしい。一度事象が起こってしまうと、復旧措置に莫大な労力、コストがかかるうえに、レピュテーションにも大きく影響する。研修のコンテンツや時期等を今一度振り返り、全員が受けられる体制を作っていただく必要があると思う。

(法人)

- 身につまされる思いである。ハラスメント研修については受講が義務付けられておらず、制度上義務ではないことが甘さを生んでしまっていると感じた。100%を目指していきたい。

(委員)

- 「学修のアウトカム」という言葉が中期計画に書かれているが、学修率のほかに実際にアウトカムを測定している部分があるのか教えていただきたい。

(法人)

⇒ GPA で成績については多少分かる。ただ、本当の意味で「科目で学んだことによりどういう力がついたか」の測定は、本質的には非常に難しい点があると思っている。

(法人)

⇒ 教学マネジメントシステムのようなものは徐々に取り入れてきている。全学教育企画室にて教学の成果のチェックやアセスメントのような仕組みを作り始めているのが現状。

(委員)

- 福知山公立大学にも加盟していただいている地域公共政策士という資格のプログラムの申請書には、授業ごとにどういうアウトカムを達成することを目標にするかを書く欄を設けている。そのため、設定されているアウトカム目標の達成度を授業アンケートに盛り込むだけでアウトカムの測定が可能だが、それがなかなか行われていないことがわかった。

以前、EU のクオリフィケーション・フレームワークについて、ドイツで話を聞いてきたことがあるが、やはり学修アウトカムのフレームワークがきちんとできていると、他の国との比較等が容易にできる。そのため、いろんな機関がこれに取り組むようになってきている。日本ではまだ進んでいないが、例えば雇用など、それぞれの地域でそれぞれの教育を受けた人たちが雑多に集まった際の客観的な比較指標として、学修アウトカムが使われるようになることも考えられる。せっかく目標の中に「アウトカム」という言葉が使われているのであれば、そういった点にも留意し、実現化していただけると良いと思う。